

S S T L

きらくニュース
KIRAKU-net.com

発行人:埼玉県障害者団体
定期刊行物協会
〒332-0011川口市元郷1-10-13

編集人:社会福祉法人 彩会 喜楽家
〒271-0051松戸市馬橋2986
TEL047-344-9951

No.114 定価100円

彩会 10周年を迎えて

皆様には、日頃からボランティアとして、「きらくニュース」の読者として、賛助会員として、地域での行事への協力、物品等の寄付等・・・様々な形でご支援をいただきありがとうございます。おかげさまで10周年を迎えることができ、彩会一同感謝申し上げます。

今年10周年記念行事としての取り組みを簡単に紹介したいと思います。

第1弾、先日6月23日(土)に松戸特別支援学校で行われた「第13回 スポーツレク大会」では、千葉テレビの人気キャラクター「キャプテンC」を迎え、地域の各団体の参加協力を得て楽しく盛り上がる行事になりました。

第2弾として、7月14日松戸市の森のホールにて、日頃お世話になっている方々をお招きして「法人設立10周年記念祝賀会」を実施する予定であります。多くの方々のご協力あっての彩会、感謝の気持ちで楽しい祝賀会にしたいと考えております。

また、祝賀会に合わせ編集委員を中心に「読みやすく、わかり易い」をモットーに「10周年記念誌」の作成に取り組んでまいりました。参加していただいた方々にご購読いただきたく贈呈する考えであります。

第3弾としては、彩会メンバーが一番楽しみにしている「彩会10周年記念合同旅行」です。彩会もメンバーが増え、なかなかみんなで旅行ができにくくなっている現状があります。そこで、喜楽家、ザザビー・ドゥに通所するメンバーを中心に、交流を兼ねて「鬼怒川の三日月ホテル」への1泊2日の旅行を9月13日、14日に実施する予定であります。昨年度から実行委員を中心に準備をしてまいりました。この2日間が、メンバー・スタッフ・ボランティアにとって有意義かつ楽しい旅行になることを願っております。

第4弾として、年末の12月に松戸特別支援学校で「クリスマス会」を実施する予定です。例年、参加団体を含め楽しい「出し物」が盛りだくさんです。今年は何が飛び出すやら?楽しみな行事の一つです。皆様にも是非参加していただき一緒に楽しんでいただけたら願っております。

10周年記念行事を中心に紹介しましたが、彩会としては、今年度は、今までの課題を整理して今後の方向性を考えていく機会としても考えております。喜楽家を利用するメンバーの方々を支えてきたのは家族の支援があったからこそです。



その家族の支援が厳しさを増す現状に対し、「ホームづくり」「ヘルパー派遣」「日常生活の充実」等を具現化する中で「地域での暮らし」を保障するシステムを創造していくことが使命だと痛感しております。これらの実現の為にも、皆様の更なるご理解とご支援が必要となります。今までの多くの方々のご支援に感謝すると共に、今後ともご協力をお願い致します。

社会福祉法人彩会 理事長 平山 隆

1人暮らしのあれこれ

いまから40年近く前のこと、馬橋で3人の方が一人暮らしを始めたのだった。ひとりひとり違う形のスタイルで生活を始めて、今日に至る。今回はいろいろとおもしろいエピソードをお持ちの喜楽家の社長こと石塚昌行さんのおはなしです。

石塚昌行さん(54歳)

質問：今までの経歴を教えてください。

印西市に生まれ在宅生活、11歳で桜ヶ丘育成園へ。小5の時、松戸養護学校へ転学し、寄宿舎に入り通学。高等部3年まで在籍。

質問：一人暮らしを決意したきっかけはどのようなのですか？

松戸養護学校卒業後、印西の実家に帰ろうかとも思ったが、実家に戻っても行き場もないしすることもイメージがなく困っていたところ、学校の先生に一人暮らしをしてみてもどうかとアドバイスされ、高校生の頃から橋本美佐男さん宅で、週に一度宿泊させていただきながら準備を進めました。

質問：始めるまでの苦労したことはなんですか？

自身体験ということで、学校の寄宿舎から実家でなく他の方の家に外泊することを認めてもらうことが大変でした。両親は、不安はあるものの反対はなく理解してくれました。卒業間近では、アパートを探すのが大変でした。何件も不動産屋をまわり、物件もたくさん見て回りました。不動産屋がよくても大家さんが駄目ということもあり理解を得るのが難しかったです。最終的には、不動産屋のご主人が良い方で「責任を持つから」と言っただき契約することができました。あと、収入がないので「生活保護」を認めてもらうのが大変でした。役所では、親が面倒みれるのではないかとまた施設入所を勧められました。結局、アパートでの一人暮らしを行う中で申請が受理され生活保護費による収入を得ることができました。

質問：一人暮らしをして、一番良かったこと、困ったことを聞かせてください。

空き巣に入られたり、新聞屋の勧誘で無理やり契約させられたり、一人で外出の際、電動車椅子のバッテリーが切れ身動きとれなかったり、地域の中学生に棒で叩かれたり、ここでは話せない経験がたくさんありました。良かったことは、自分の意志で好きな時に外出したり、友達にあったり、様々な経験をして楽しむことが出来たし、今後みたいです。

質問：今後はどうしていきたいですか？

できるところまで一人暮らしを続けたい、自分の楽しい・つらいこと・失敗談等を後輩達にいろいろな方法で伝えていきたい、また、地域の方々に、障がい者の地域での暮らしを実践しながら理解していただくための取り組みをやっていきたくと思っています。



少人数外出始まる！！

今年度もメンバー皆さんの希望により少人数外出を実行することになりました。6月に入ってすぐ、決定した事とメンバーの組み合わせの発表があると、今年が一番に出掛けたい！！と意気込む声が聞こえてきました。そして、見事一番乗りの外出をした大野さん潮さんペアは流行のソラマチに行ってきました。



東京ソラマチに行ってきましたね
みたいですよ！
喜楽家では一番乗りですね



(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)(*^_^*)

スカイツリーとはいポーズ

初めてみたスカイツリーの感想
大野さん「結構楽しかった♪やっぱり一番にこれてよかった～」
潮さん「高くて首が痛くなる」「お店がいっぱいあって良かった。」



たくさんのお店があるみたいですね



サザエさんの形の大判焼き
美味しそうですね(*^_^*)
私も今度、食べにいきたいな

さてさて
次のグループは
どちらに出掛けて
いくのかな

呑んべ〜シリーズ第4弾

呑んべ〜の一言

皆様、はじめまして。5月中旬より喜楽家スタッフとしてお世話になっています。喜楽家に来てまだ右も左もわからずの中(笑)…編集長の境谷さんから“お酒は飲みますか〜?”と声をかけて頂き(笑)“飲みますよ〜”の返答から今回の呑んべ〜シリーズの原稿を依頼されました(笑)

とは言え…最近は飲む機会はありませんが…呑みニケーションは好きだなと…思い返せば歴代の職場ではよく飲みに行く機会があり、参加率は高かった若かりし時代の昔話し(笑)でもさせていただきます。

20代の頃は仲間や上司の方達と残業の後は何故かセットで飲み会が暗黙の了解的な職場時代があり、私も元気に朝までコース!!(笑)。職場が都心で仕事終わってから終電を考えると(サービス業で終了時間が遅い職場でして)皆との語らいの時間も僅かなら〜皆で朝まで行こうな空気に〜帰れる人は帰ってとでしたが、千葉に帰りまた翌日朝早く職場に来るのなら…モチロン朝までコースに参加率高かった私も、さすがに飲み屋さんやカラオケ屋さんは朝方クローズ…さて仕事始めまでのリセット時間にと仲間数名で早朝の山手線に乗り込み(笑)終点がないのを有効利用?(笑)させていただきます(笑)電車の中で(笑)ほんの少し仮眠をとり、程よい時間に目覚めると電車の中は通勤ラッシュのサラリーマンの方々に囲まれて朝を迎え、爽やかに?(笑)仕事に向かうという今思い返せば…若かったなあ(笑)…そして飲むのが好きの前にそうした時間で呑みニケーションで素敵な仲間達との語らいに沢山の気づきがあったな〜と!

年齢を重ねていき、そうした飲む機会は減り何よりも体力気力が減り(笑)でも仕事では忙しくなかなかなか話しができなくも交流を深める1つのキッカケにお酒を飲みに行く習慣や雰囲気は素敵だな〜と!

呑んべ〜シリーズの原稿依頼で様々なことを懐しく思い出しました〜。ありがとうございます!

喜楽家に来て仕事を覚える前に飲みの話しの1つをつたない文章で…

お酒が飲めない方もみんな、そして友人同士はモチロン美味しい食事やお酒を囲んだそんな集まりは…いつもと違った仲間にも自分自身にも出会える時間のコミュニケーション!素敵ですよ〜!と…まとまりのない文章を読んで頂きありがとうございました。



喜楽家スタッフ 弘光 恵理子

呑んべ〜のみなさん。

次に原稿を依頼するのはあなたかもしれない!!

声の文法— 3 1

—「声」の文法とはどんな意味か—

序 前章に引き続き本論のテーマである「声の文法」という言葉の意味を説明している。前章で述べたように、江戸時代の国文学者、鈴木胤は、伝統的な日本語分類、詞と辞について、詞を「ことば」、辞を「心の声」とたとえた。「声の文法」はこの「心の声」である助詞・助動詞の働きこそ日本語の本質と考えて、命名した。本論は、伝統的な日本語文法である詞・辞論を復活したいのである。のみならず、一歩進んで、本論では声、肉声が文法の働きをする事実を指摘している。だから「声の文法」なのである。

—1 西欧語と日本語、文法上の相異点

声が文法の働きをする、とはどういう事か、日本語では、声、肉声を発する事自体が文を成立させているという事である。これは以下に確かめていくが、事実である。しかし西欧語の文法では考えられない事であるので今まで明白に指摘されてこなかった。

明治維新以来、脱亜入欧のかけ声の下、社会の諸制度や衣服や髪型など文化の多くのものが西欧をモデルとして作り直された。学問の分野も同じである。理科系の科学・技術は圧倒的な迫力で日本に移入された。文科系でも法学、経済学、歴史学、また仏教学でさえドイツからの輸入学問である。文法も西欧語の文法をモデルとして、日本語の文法を構成することとなった。理科系の科学・技術はともかく、異なった歴史・文化をもつ国々、人々に対して、あるヨーロッパという地域の文化系的学問が同じように通用するとは考えられない。

日本語の文法研究者も、当然西欧語の文法を日本語に当てはめてみて、ずれがあると気付いていた。本論でも述べてきたが山田文法の陳述論、時枝文法の言語過程説、三上文法の主語廃止論などその証拠となる。

—2 一語文

しかし、上記の三人も、日本語は声で文を成立させると断定するまでに至らなかった。西欧語の文法では声と文法は関係ない。西欧語の文は主語があって、これに対応して述語動詞が決まり目的語が付く…というように、単語と単語の関係で構成される。日本語の辞のようなものはない。これが常識で、この常識から離れられなかったからである。

この常識からみて、最も奇妙と思える日本語の特長は、一語文である。フランスの日本文化研究者であるオギュスタン・ベルクが一語文をどうみたか、紹介する。彼は「空間の日本文化」(ちくま学芸文庫)の中で、日本語を勉強する際に、見せられた日本映画の一場面について述べている。戦地で危険が迫っているのに医師が看護婦に避難するよう話している。しかし看護婦は説得に応じない。ついに彼女は一言「好きです」と医師の顔も見ずに答えるのだ。この場面にベルクは「奇妙な感動を覚えた。」「映画の愛の告白は愛するという行為が完全に宙に浮いている。」と述べている。フランス人ならこの場面では、彼女は医師の顔を見て、「Je vous aime」という。主語+動詞+目的語がそろっていて、だれがだれを好きなのか明白である。対してこの映画で

は「好きです」という動詞の「好き」と辞の「です」の結合した一語文が使われている。この文は西欧人にはだれがだれを好きなのか言っていない欠陥文に見えるのである。主語と目的語が無いのだから。

—3 一語を文として成り立たせる声

もちろん日本人には看護婦さんの切ない恋ごころは理解できる。一語文は成り立っている。では一単語はそれだけでどのようにして文として成り立つのか。次の文を見ていただきたい。

女性—「好き」

男性—「好き」

女性—「好き」

いくら日本語でも上の例はなにもわからない。文として成り立っていない。ところがこれに声、肉声を足せば文として成り立つのである。さっそく試してみたいが、この紙上で声を響かせることはできない。そこでイントネーションを表す符号を導入する。

1 女性「好き？」

2 男性「好き！！」

3 女性「すーきーい！？」

このように発声することで文は成立した。1は女性が男性に問いかける疑問文である。2はその疑問に回答する肯定文である。3はその答えを聴いて、女性が照れたのか、からかうような口調で答えている。もちろんこの文では私たちに何について好きだといっているのかはわからない。女性が自分を好きか尋ねたのか、第三者や物についての事か様々に推測し得る。しかしこの御二人にとっては自明の事である。文を成り立たせているのは肉声であり、声は音波であるから、波の伝わる場を両者が共有している。共有する場所のでき事であるから、了解できるのである。

—4 名詞文

まず名詞の一語文について考える。動詞の一語文は英語では命令形になってしまうので前節のように会話にはならない。名詞の一語文は西欧語でもあり得る。例えば呼びかけ文「Jack!!」のように名前を呼ぶ場合など。前節で述べたような共有する場がある場合、例えばマクドナルドで注文する時やホテルのフロントでのやりとりなどは単語だけでも会話は成立する。これは応答がマニュアル化していて、容易に相手の言いたい事が推測できる場合である。西欧語では例外であって、あくまでS+Pの形は原則的にくずさない。それに対して日本語は自由自在である。

以下 次章

西川 淳司